









巻之三

春乃若れり 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり

一 乃ひまのちと初よりて名とせり





あつらひな路とつらや

そのの作をこそ 花玉警れよと也 夫東院の意はわたり  
まをさへやうにやまひる人 細源氏とこそいふのうら  
と強路よらうも路るゆのやまうとていふや

いとわらうあひのかたうらひさひさひさうとていふとあは  
さふられ 花玉警れよと下ふあらうと也 小蝶のまを  
奥よりいふるや

つらきんうらうらとていふとあはさうとていふとあはさ  
はと 細源氏と大実直とていふとあはさうとていふとあは  
とがまふ可なり也 花玉の警れよとていふとあはさうと  
あはさうとていふとあはさうとていふとあはさうとていふと  
は乃の所見女とあらうとていふとあはさうとていふとあは  
らぬとていふとあはさうとていふとあはさうとていふとあは

つらきんうらうらとていふとあはさうとていふとあはさ  
はと 細源氏と大実直とていふとあはさうとていふとあは  
とがまふ可なり也 花玉の警れよとていふとあはさうと  
あはさうとていふとあはさうとていふとあはさうとていふと

つらきんうらうらとていふとあはさうとていふとあはさ  
はと 細源氏と大実直とていふとあはさうとていふとあは  
とがまふ可なり也 花玉の警れよとていふとあはさうと  
あはさうとていふとあはさうとていふとあはさうとていふと  
は乃の所見女とあらうとていふとあはさうとていふとあは  
らぬとていふとあはさうとていふとあはさうとていふとあは

つらきんうらうらとていふとあはさうとていふとあはさ  
はと 細源氏と大実直とていふとあはさうとていふとあは  
とがまふ可なり也 花玉の警れよとていふとあはさうと  
あはさうとていふとあはさうとていふとあはさうとていふと  
は乃の所見女とあらうとていふとあはさうとていふとあは  
らぬとていふとあはさうとていふとあはさうとていふとあは



























Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines.















~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~







































のまろくこをらつるまゝひんかひんかしてさう

花 おあやこはらうまゝと師説とおまゝ也なり

印のくろけをうらるとん ぬあうまがとくまふよの路つるん

うらけり

ひんかこれおとくして行く 案の書かそがうんくは

出の事あり

まひみこたらぬらへはひんか 案の源氏のむか

〜いさ〜いさの家と也

てはくひもおほやまこ〜いさ〜海らつるといさ〜

うられまうらてらまま〜いさ〜海ら〜く〜いさ〜

路の ぬ禁中ま〜いさ〜ゆめれら〜あつ〜いさ〜

と案院へま各殺を〜いさ〜ひ行ゆ〜いさ〜

と海らつてさつら〜いさ〜たらと〜いさ〜

まうら〜いさ〜海也 花はつ〜いさ〜結〜官

く〜下馬のらつてめさつら〜いさ〜

結〜いさ〜わさ〜いさ〜

〜いさ〜あ〜いさ〜

〜いさ〜あ〜いさ〜

〜いさ〜あ〜いさ〜

〜いさ〜あ〜いさ〜

左太の務村ハ中が将ハ石村之と案院ま〜いさ〜

のつら〜いさ〜

女をちのあやめもま〜いさ〜とあれと案例の式ア〜いさ〜

と移りともいさ〜いさ〜

人也 花と移り〜いさ〜

ら〜いさ〜























































あり 琴又ちうくさうての語也

うたに倣うてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

<sup>果</sup>は物語は源のほりもさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

末橋乃あゝさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

<sup>細</sup>これさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

くさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

意とさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

玉髻とさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

後の意執とさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

はそのおれさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

くさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

さうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて



花 和漢とたふるまれと作志の心は後代よりいへ  
 たることとていふるまればさうも同くもやせりやその心は  
 書りもも古くおきまをわらふもいふはさうもいふ  
 うらる也 細文神古今にかゝることも異朝中  
 朝の作意又それらうて浅深こそまゝに今れ一向は  
 るたみくいはるまのさうもさうもあつてせりも是則  
 きての路也さうもさうもあつてせりも是則  
 方等也寂初より大乗と流路より仏の本意なれ  
 前生れ機つるさうもこれせん大乗をやりもて 捨取  
 と流路つるさうも中に阿含の一向小乗也  
 佛のつるさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 とさうもさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 さうもさうもさうもさうもさうもさうもさうも

三世法仏出世乃中懐る前生成成仏の正道也一也是さう  
 りさうもさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 乘流とせん流路とさうもさうもさうもさうもさうも  
 と仏のさうもさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 花 嚴經の心也は時と仏さうもさうもさうもさうも  
 まうもさうもさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 るるも二をわらひさうもさうもさうもさうもさうも  
 心乃紅りさうもさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 之梵天はさうもさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 路也やうもさうもさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 隨經さうもさうもさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 一心とては悟もさうもさうもさうもさうもさうもさうも  
 下りては悟即菩提生死即涅槃歟へさうもさうもさうも



又於悩と業提との名をてつとをばつり志うれんあや  
 びるしうしうしと也又終女う愛して男子と成と悩  
 即業提のんぬへし女の即男子と成て南方云塔乃成  
 仏と唱へるは悩即業提よりくけつりしは物法を  
 仏はより入るもあひるるへしは物法と何とてとるは  
 るととれん悩也又一方は一仏と何ハ法物法と即業提  
 成へし是れちて王名宗の儀よりくけつり法花と云ふより  
 けしむるに付て亦その法也とて皆方便とつり方  
 等經の六時表の中中三時よわらう大乘經の初也淨  
 名思益木の竹也小乘經呵しして大乘と廢羨とら故よ  
 方等終とてし孫呵廢疑の表とつり二乘は對して説  
 終故也何れもその仏の方便はつりもとる生の機とつりん  
 て説終つりゆへんあやしつりもとる生の機とつりん

しつりんの終つりんはつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりん  
 とつりんとて其をいふしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりん  
 胸の二機とてつりんはつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりん  
 胸よあやしつりん也三界唯一心々外至別法の通程也悩と  
 業提といふことへん水と氷とのことへんあやしつりんあやしつりん一性  
 也あやしつりん業提乃水也とあることこれハ悩の水も中  
 成りあやしつりん金各名あやしつりんあやしつりんあやしつりん  
 理あやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりん  
 と何れもとむしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりん  
 ととれんあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりん  
 うらあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりん  
 やしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりん  
 速速とつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりんあやしつりん



大乗は入初つたりをやめると別ははく  
 凡れ素出世の本意は凡聖一如善惡不二なりと云ふと云  
 て能生乃まういひと速りいりうへはんとおのめいん  
 おまの熱のささまりもささるるなりありあり  
 四より依りしと云ふは故はあまも実花はま  
 土と云ふはと報力のともくは法はと三專唯一心の法  
 されんはのんとははと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 嚴淨のまやも便といふもあつとてと云ふは初は大乗の  
 法終りんもゆの中も急也されんはと時をばらるる生に不  
 急の法は法終りの機をとお恵と云ふは六の二七日思樹れ  
 内能<sup>チ</sup>と云ふは又大乗法やりつけ十二指教と云  
 終りる中阿含經一向乃小乘也仏と芳<sup>チ</sup>意<sup>チ</sup>力<sup>チ</sup>不化  
 と變と云ふは又と云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは

ゆりたこといはと者くもと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 物と云ふは純なるなりは故はと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 便と云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 年は花八年涅槃一日一夜方等無說時と云  
 細  
 は法もと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 法抄よりたたり也来と云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 じつうへはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 と云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 くらんよの等終り中よおのれと云  
 阿含經の四諦<sup>チ</sup>縁<sup>チ</sup>生<sup>チ</sup>の法つは全く也事此中意ありぬ  
 と不化乃機<sup>チ</sup>振<sup>チ</sup>りやと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 空の理と云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
 是はと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは



























































Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with a small symbol or character. The script is dense and flowing, characteristic of historical cursive writing.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with a small symbol or character. The script is dense and flowing, characteristic of historical cursive writing.











